

■趣 旨

東日本大震災と津波によって甚大な被害を受けた宮城県沿岸部。震災から 12 年を経過し、市街地整備や災害公営住宅などの復興事業は完了しましたが、復興によって再生した街はどうなっているのでしょうか。

今回は鉄道や BRT などの公共交通機関を使ってこれらの街を訪れ、宮城における復興とまちづくりについて考えます。

■日 程

2023年9月10日(日) 11:00~19:00

※9/9~10の2日間の予定だったが、台風のため
9/10の1日のみに短縮している。

当初予定していた志津川の街歩きは中止とし、野蒜
はオプションとして希望者のみで実施。

(なお、9/9に独自に街歩きを実施した参加者もいる
ため、志津川の評価も記載している。)

■行 程

◎女川駅 集合

◎女川町 **女川中心部**

↓ 女川 ⇒ 石巻 (JR 石巻線)

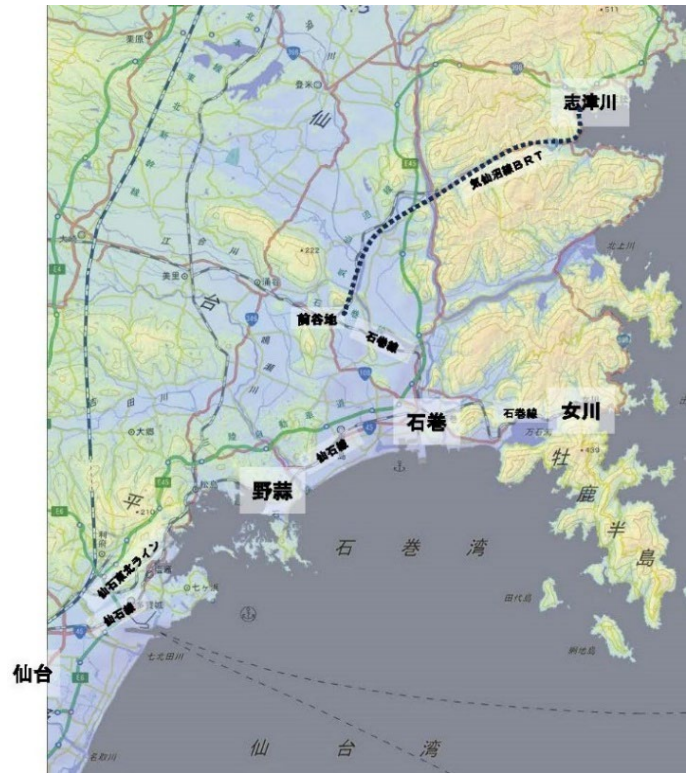
◎石巻市 **南浜地区** **新門脇地区** **中心市街地**

↓ 石巻 ⇒ 野蒜 (JR 仙石線)

◎東松島市 **野蒜地区** ※オプションとして実施

↓ 東名 ⇒ 仙台 (JR 仙石線)

◎仙台駅 解散



■参加者

伊藤貴教、磐村信哉、大竹 亮、小川美由紀、加藤仁美、原 久子、藤井正男、藤井幹也、古里 実、★栗原 徹、
★椿 真吾 合計 11 名 (★: コーディネーター)



女川中心部

1. 復興事業によってできた街

女川中心部

評価 5.00 【AAAAAAAAAAAA】

- ◎女川町の中心市街地は東日本大震災で壊滅的な被害を受けており、復興市街地整備事業などによって全く新しい街へと生まれ変わった。
- ◎防潮堤を意識させない造成計画としたことで、海がどこからも見えるというコンセプトを実現し、シンボリックなデザインの女川駅から、商業エリア「シーパルピア女川」を経て海に至る、明快な軸線が形成されている。
- ◎また、高台の住宅地は、商業エリアからそれほど遠くない立地であり、海への軸線を意識したデザインの復興公営住宅など、質の高い空間となっている。
- ◎これらのまちづくりによって、特に商業エリアは賑わっており、震災復興地区としては最も成功しているといっても良いのではないかな。



女川駅



シーパルピア女川

■参加者のコメント

- A：復興を期に、みごとに新しい復興拠点・まちづくりを実現できた好事例の一つ。かつ、堤防機能を宅盤をゆるやかに整備することで、海を見通すことができ、堤防とはわからない空間構成が秀逸。さらにそこから公共施設や住宅が、宅盤を高くしながら連続的に市街地が形成されており、市街地全体としての一体感がある。
- A：海～女川駅前の賑わい 拠点～高台の住宅地と徐々に高くなる造成計画によって、防潮堤を意識せず、海がどこからも見える街になっている。シーパルピア女川は多くの観光客で賑わっていて、とても活気が感じられた。
- A：女川駅から海に向かうレンガみちを軸にした開放的な空間、まちなか交流館等の落ちついた色合いの店舗群、緑のある中庭、こども広場などが魅力的で癒された。旧女川交番は震災被害の状況を写真でしっかり伝えていて見入ることができた。災害公営住宅の大原町営住宅はコミュニティボックスの使われ方が気になった。運動公園住宅は、中庭等が畑や植栽で使われていて親近感をもった。
- A：海を見渡せる軸線と自然な傾斜で防潮堤をほとんど意識させない造成計画が良い。大原住宅なども海への軸線を意識した住棟配置計画となっていて好感がもてた。また、運動公園住宅は丁寧なディテールのデザインなど建築設計の質の高さを感じた。
- A：終着駅から海に向かって展望が広がり、真直ぐなプロムナードの両側に商業施設が並んで、優れた景観と賑わいづくりが成功している（当日も来街者が多かった）。丘上の復興集合住宅の外部空間や共用施設も、ヒューマンスケールで居心地よさそうだった。
- A：当初のコンセプト「海が見える」に沿った整備を行い、防潮堤の見えないまちづくりを目指した成果は大きく、視察した中心部エリアには良質な空間が出来上がっていたように思います。
- A：住宅の高台移転を実現した事で巨大な防潮堤を作らない事を選んだのは良かった。高台移転が出来たのは旧市街地が全壊したこの町だから、ですね。シーパルピア女川はとても今風で、外部からの来訪者を大勢集め賑わっていた。

A：緩やかな盛土、「どこからも海が眺められる」のコンセプトが具現化されていてよかった。海の見え方がもっとワイドで海や湾との一体感があるとよいと思った（地形上など事情などがあったのかもしれません）シンボリックな駅舎とシンボリックロードもよかったが、商店街、役所エリアと運動公園の住宅地との連携が現状では弱い。運動公園住宅エリアの高齢者が賑わいの中から分断されてしまった感じ。

A：復興まちづくりを、元に戻すということではなく、以前のまちになかった新しい人たち、機能を持ち込もうという姿勢が素晴らしい。まち、建物の景観コントロールもしっかりしています。

A：被災地であることを忘れてしまうような海までの見通しの良さ。普通に岸壁でつりをしている風景。

A：・女川駅のホームは貧弱な感じでしたが、駅舎は来訪者の玄関口として堂々たる姿でした。

- ・駅からは海に向かって開放的で、両側には賑わいを予感させる建物が建ち並んでいて、人々が自然と海に向かって歩いて行きたくなる素敵な空間と思いました。

- ・駅から海へ向かう通路沿いの建物が木を感じさせる造りで、豊かな空間形成を担っていると感じました。

- ・まちなか交流館の中の大空間は素晴らしかったです。事前に頂いていた資料で予習はしていましたが、展示してある模型やパネルが復興事業の理解をする上で大変参考になりました。（私が行った時にも大学生らしき若い方々が模型やパネルに見入っていました。）

- ・旧白川交番は手を加えない方針だと思いますが、さすがに育ち過ぎた樹木、雑草は刈った方が良いと思いました。見えにくかったです。

- ・新しい役場は津波対策を取りつつ、下の道路からのアクセスもしやすい造りになっていて、造成と建築で工夫がされていると思いました。休庁日でも併設施設開放されていて、町民の方々にとって安心で快適な庁舎になっているのではないのでしょうか。

- ・お手本になるような、かつてのニュータウンで見られたようなしっかりとした造成法面を見ることができ、心が休まりました。（街中は直擁壁だらけなのです。）



- ◎震災により甚大な被害を受けた地域であり、その大半を南浜復興祈念公園とし、市街地は新門脇地区に集約して整備を実施している。
- ◎新門脇地区は道路や公園などが整備され、災害公営住宅などもできているが、店舗が少なく銀行や郵便局などの施設もないことから人口が十分には回復せず、空き地が多くみられるなど、街の復興が上手くいっているとは言い難い。
- ◎なお、地区内の旧門脇小学校は震災遺構として整備されており、その展示内容も含めて非常に見ごたえがあるものとなっている。

南浜復興祈念公園と新門脇地区



旧門脇小学校



■参加者のコメント

- A：実際に日和山から地区を一望し、震災遺構の門脇小学校を見学したインパクトが強く、Aを付けました。周辺住民の意向で保存されず撤去された例を耳にしてきましたが、被災の実例を後世に残す意義をあらためて思いました。
- B：震災遺構の旧門脇小学校（裏に日和山公園）は、津波避難の話題とともに後世に残すべき遺産であることを強く感じさせられた。新門脇地区は開発途上であったが、復興公営住宅の足元の空地やベンチ等の空間づくりに期待したい。カーシェアリングの試みや集会所、生活利便施設の使われ方も興味深い。旧北上川沿いの土手沿いの風景も魅力的なので、かわまち交流拠点整備事業との関係づくりがどうなるか興味深い。
- B：道路・公園・堤防等の基盤整備は十分だが、建物が少なく空き地が目立つ光景に、地域復興の難しさを実感した。津波火災にあった旧門脇小学校は、（増築部分のデザインにはびっくりしたが）貴重な震災遺構として保存公開されている。
- B：破壊された門脇の旧市街地の痕跡は既に無くなっていて、明るく大きな復興公園に変貌していた。被災した住宅数の割にはこの地区の復興住宅が少なかった様に思うが、他地区に移転した？
- B：門脇小復興遺構は見ごたえがあったし、日常の訓練が被害を最小にした記憶として重要な施設だと思った（だから残せたのかも）。まち全体は、どう復興させるのかかが中心市街地との関係でうまく解けていないと感じた。
- B：旧門脇小学校の震災遺構には訴求力を感じた。被災地の大半を祈念公園として整備せざるを得ないのは複雑な気持ちが残る。
- B：非住宅としたために既存の墓地が突然目立ってしまう風景。日和山から降りる階段は、1回通ったはずなのに、今までに1番の長さで角度でした。
- B：山形屋醤油、蔵など昭和の埋め立て以前の建物がエリアとうまく調和しつつ残るとよい
- C：元の市街地の大半は公園となり、復興区画整理が行われた新門脇地区も災害公営住宅以外は墓地と空き地という状況で、店舗なども少ないので、街の復興という観点では、あまりうまくいっていないように思える。
- C：まちに人、にぎわいが戻ってきていないことが何より課題。事業に関わった立場としてはなんとも残念です。門脇小学校跡はいろいろ論争がありましたが、充実したミュージアムになっていましたね。

- ◎石巻市の中心市街地では、市街地再開発事業や優良建築物等整備事業、旧北上川の堤防整備と街の拠点施設とを定期的に整備した「かわまち交流拠点」などによる復興事業が行われている。
- ◎また、歴史的建築物である旧観慶丸商店の再生や松川横丁の共同建替え(KOMICHI 石巻)など、ユニークなまちづくりも進められており、街の拠点はかなり整備されてきたイメージ。
- ◎一方、再開発が計画されている地区がまだ空き地のままになっているなど、中心市街地全体としては活気がそれほど戻っておらず、地方都市中心市街地のまちづくりの限界も感じられる。

■参加者のコメント

- A：復興事業は順調に進んでいるように見えるが、そもそも地方都市中心市街地の疲弊という大きな課題への対処法策として、再開発や災害公営住宅による市街地居住の復活、一部残る歴史的資源の効果的活用（観慶丸商店やカフェ蓮など）、起業による小規模ながら魅力的な施設の創造（KOMICHI など）といった試みで、新たな形で再生していくことを期待したい。
- A：まち全体としての市街地のまとまりはまだできていないが、かわまち、元気市場、再開発、共同化、リノベーションなどの拠点がインフィルになっており、市街地全体の再生が進んでいると感じた。
- A：地主の矜持、立町二丁目開発が印象に残りました。震災前からの市街地中心部の求心力低下の影響は気になるところです。
- B：石巻の中心市街地は、再開発事業などを活用しつつ街の再生を進めているが、空き地も多く、まだ途中段階というイメージ。かわまち交流拠点や旧観慶丸商店など、街の拠点はできてきたが、街全体としての賑わいは乏しく、地方都市の限界が感じられる。
- B：旧市街地の街区内の表通りと裏通り沿道建物の更新により、歴史を感じる古い建物と復興後の新築共同住宅や店舗等、モザイク状の街並みがユニークで歩いて楽しく、魅力を感じた。
- B：小さな路地が残されている。石巻テラスのような集合住宅、かつての石巻の繁栄と文化を感じるところがあった。どこかに石巻らしさが残るとよいと思う
- B：再開発に協力した地主の家を囲むように行われた立町二丁目 5 番地区の再開事業には驚いた。メインの通りの賑わいにも貢献している。
- B：石巻には 2011 年と 2017 年の 2 回訪れたが、2017 年の訪問時に比べ今回は人出も少なく街が少し寂れてしまった様に感じた。被災から 10 年を超えての風化もあるのでしょう。中心市街地は全壊では無かった為にまだらな復興となっていました。
- B：震災の影響というより全国で見られる現象だと思います。その中でスポットを生み出している方の地元愛を感じます。
- B：旧北上川沿い、まちなかのいくつかの再開発、共同建て替えなどまちに面白さが加わってきたと感じました。



志津川地区

評価 3.40 【AABBC】

(※全体まち歩きは実施しておらず、独自に街歩きをした者のみの評価)

- ◎復興市街地整備事業によって、住宅地や町役場、病院などは高台に移転し、低地部は産業・交流などの土地利用と復興祈念公園となっているが、高台部と低地部の間にはかなりの距離がある。
- ◎低地部の震災伝承施設「南三陸311メモリアル」は非常に力強い建築であり、「南三陸さんさん商店街」も賑わっているが、その周辺の施設があまり立地していないなど、商業エリアとしては少し物足りない。

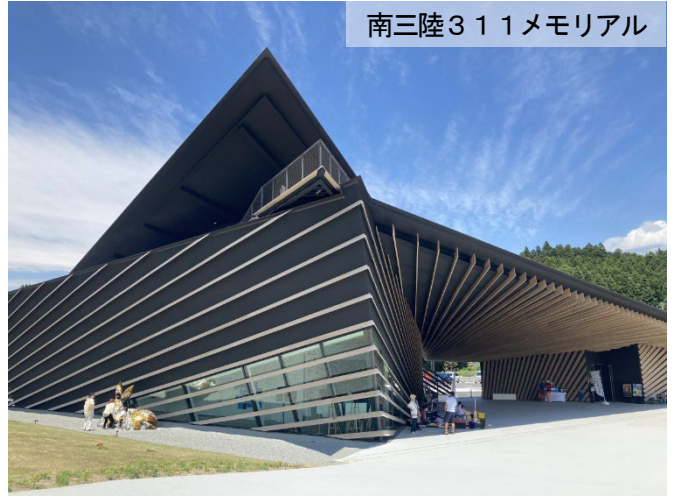
■参加者のコメント

- A：志津川中央団地の住宅は戸建てがメインとなっていて地区によってはハイグレードな家屋が並んでいたのは意外。南三陸町役場、病院地区の住宅地は集合住宅を戸建て住宅が囲むレイアウトで今風でした。いずれの復興住宅もBRTが通ってはいるが志津川の中心地から遠いのが辛いところ。隈研吾の「南三陸311メモリアル」は力強い造形で施設の趣旨をよく伝える建築になっていた。同じく隈研吾の「さんさん商店街」は恒久施設と思われるが仮設感がありもう少し造りこみがあったらと感じた。
- A：隈研吾の力強くのびやかな建物のデザインはよかった。この建物から得られるパワーで人々に力を与え元気なまちになりますよう。
- B：南三陸311メモリアルや木造の中橋など、建築や施設としては面白いものできているが、周辺も含めた街としては何か物足りない気がする。高台部の住宅地では、志津川東復興住宅の広場空間がなかなか良い雰囲気。
- B：南三陸311メモリアル、祈念公園、さんさん商店街の一带はよくできているが、市街地全体を見たときに、施設と住宅の一体感など、日常のまちとしての姿が見えにくかった。
- C：低地部エリアはサンサン商店街だけがにぎわっていて、祈念公園を訪ねる人もまばら。周辺の施設立地もあまり進んでいない印象を持ちました。高台エリアと大きく区分する復興まちづくりの考え方が訪れた人にどれだけ理解してもらえるか考えさせられました。

南三陸さんさん商店街



南三陸311メモリアル



中橋



志津川中央団地



(※オプションとして参加可能な者のみで街歩きを実施)

- ◎被災した市街地部分はあまり整備せず、北側の丘陵を震災復興事業として大規模に造成し、市街地全体と鉄道及び駅舎を高台に移転することで、全く新しい街をつくっている。
- ◎戸建て住宅主体の住宅地は落ち着いた雰囲気、スーパーなど最低限の便民施設は揃っており、空き地はほとんど無いようなので、生活しやすい街になっているのではないか。
- ◎戸建分譲住宅と賃貸住宅に加えてカフェやブルワリーもセットされた「野蒜ヶ丘サスティナブルコモンズ」が住宅地の中にできており、街の新たな魅力となっている。

■参加者のコメント

- A：復興事業による住宅地は、落ち着いた良い雰囲気に仕上がっており、旧市街地にこだわらずに、市街地全体を高台に移転させたのが良かったと思う。また、住宅地の複数ブロックをまとめて開発した野蒜ヶ丘サスティナブルコモンズは、非常に意欲的な試みであり、街の魅力を生み出すことが期待される。
- A：被災した JR 仙石線を造成した高台へ移設している点、被災者のための新しい住宅地の敷地規模が大きくフットパスの整備など計画の質も高い。宮野森小学校のデザインも良い。クラフトビールやお惣菜カフェなどのお店も誕生していて今後が楽しい街になっている。
- A：鉄道と住宅地を思い切って高台に移転して、ニュータウンのような姿になっている。計画開発なので利便性と居住環境は優れており、地域施設も多く暮らしやすいように見えた。駅近くのカフェ・ブルワリーやシェアキッチンを囲むテラスハウス群は面白い。
- A：目の前に忽然と現れた「野蒜ヶ丘サスティナブルコモンズ」。開発途中ながら小洒落た一角を形成していました。周辺とは趣が異なるこの場所を、野蒜地区が今後どのように育てるのか（育てないのか）興味を引かれました。
- A：サスティナブルコモンズからは、若い層に「君たちがこれからよいまちをつくっていくんだよという」オーナーのメッセージが聞こえるよう。野蒜駅前合理的かつ画一的な住戸エリアで路地的な部分など変化がつけられればよかった。野蒜駅前の一般の住戸を利用した居酒屋さんがまちなみに似合わず侘しい景色に見えた。
- A：丘陵に新設された駅といい、戸建住宅地の家並みはヒューマンで魅力的であった。コミュニティを形成するのに適切な規模なのではないかと感じた。丘下からの長い階段は少々気になったが。
- B：きれいな住宅地になっていますね。サスティナブルコモンズのようなしゃれた施設もできていて頼もしいです。 周辺部と縁が切れているところが先々、心配です。
- B：住宅地の高台移転と共に鉄道線路&駅も高台移転された例。実際に歩いてみると、商店としてはミニスーパーが一軒しかなく普段の生活に充分とは言えない。居住人口から致し方ないと思うが住民は不便を感じるのでは。旧市街（崖下の低地）にも住宅が建ち並んでいたのを疑問に思った。



宮野森小学校



↑ ↓野蒜ヶ丘サスティナブルコモンズ



2. 宮城の復興まちづくり全般についての意見や感想など

- ◎ 第1ステップとして安全な街が出来上がりつつあると思った、移転の住宅地はどこもきれいで明るく若者が住みやすい。新建材使用や大手メーカーハウスも並び、東京郊外の様。女川のシーパルは植栽も上手でセンスよく、軽井沢のハレニラテラスの様（設計者同じですが）そこから見る海は東北の海ではないよう。水産業は「海鮮丼」など観光要素としては活かされていますが、水産工場や漁港など地域のナリワイのリアル感が弱くなっているイメージ。でもこれが住民参加の住民ニーズが表現されたものなのでしょう。ライフスタイルを含め積極的に違う街として生まれ変わっていいとしているのか、処々の事情を含め仕方がないのか。まちを見ていて思いは複雑です。部外者は東北らしさ、地域の個性や生活感が失われており残念と思ってしまうのですが、何をもって地域らしさ、地域の誇りを表現しどの程度保てばよいのか。年寄りではなく若者の未来へは正論ですが、その未来とはどんな暮らしのどんなまちなのが、力強くは描けませんでした。個々がクリエイティブに考えていくしかないのでしょう
- ◎ 前回の岩手県沿岸部に比べて、今回巡った宮城県諸都市は大都市仙台に近いために、観光商業や住宅地開発が順調に成功しているように思えた。特に女川の駅前地区や東松島の野蒜地区のように、まちづくりの目的が明快に設定できると上手くいっているようだ。一方で石巻中心街は、地方都市中心街の再生というどこでも難しい課題に直面しているが、復興事業を契機に新しい形を模索してほしいところ。東北復興全体として、どの都市でもヒューマンで居心地の良いスペースが多く作られており、定住促進やコミュニティ形成に上手く活かされるといいと思う。
- ◎ URが関与した復興市街地整備事業は全て完成しているが、本当の意味で街が復興できたかということ、地区によってその評価は様々であろう。（女川などはうまくいっているが、新門脇地区はあまりうまくいっていない、など）また、石巻中心市街地は再開発などによる整備が進んでいるが、地方都市では施設需要に限界があり、街を再生させるには新たな方策が必要だと思われる。宮城における復興でできた街をきちんと評価し、課題を分析することで、これから起きる大規模災害の復興や計画づくりに反映させることが必要だと思う。
- ◎ 最初は復興の拠点に興味を感じていたが、実際に歩いてみると市街地全体の構成に目が行くようになった。宅地のレベル設定や堤防機能をどう確保するか、先行事業としての復興拠点をどう整備するかによって、商業的な復興拠点～公共施設～住宅という一体感のある市街地形成に差ができたように感じた。
- ◎ 整備手法は限られているとはいえ、被害を受けた市、町、それぞれの考え方の違いで、復興事業もずいぶん違ったものになっていると感じています。ハード整備はひと段落していますが、真の復興はまだこれから、という思いを強くしています。
- ◎ 女川の例にもあるとおり、海の見える軸線と防潮堤の高さが、計画への評価の分岐点になるように感じました。さらに、持続可能な復興まちづくりという点では、生業の創出と育成がカギになると思うので、そうした取り組みが増えることを願っています。
- ◎ 私が現地を前回見た時には、片付けが終わっただけで、これからについては動きがない状態でした。未来のために大きなまちづくりを実現させた人たちに敬意を表します。
- ◎ よく検討された計画的な復興市街地が形成されつつある。東日本大震災を経験した地域として、コミュニティ形成（ソフト）や避難等がしやすい市街地形態（ハード）となっていることを期待したい。
- ◎ 今回訪問した女川町の中心部だけでも相当な労力を要したと思いますが、なにより並行して多数の地区で復興事業が行われたことにURの底力を感じました。
- ◎ 再生した現在のまちの姿が、住民の目には一体どのように映っているのか、機会があれば住民の意見や感想を聞きたいと思いました。



シーパルピア女川



リバーサイド MOTOMACHI (石巻)

3. その他、印象に残ったところ、企画全般に対する感想など

- ◎ 高台移転など復興のまち&災害遺構を見つつ、これだけの復興ができる経済力など日本の力を感じました。住民たちの様々な声や、時間や経済性などの限りある条件下に、復興に関わった方々のご苦労とご尽力を感じました。いずれにしても今後はまちに住む人々の力によるところが大きく、バトンが託されたのだと思う。数年後10年後どういう暮らしの街になっていくのか訪問してみたいと思いました。(H.H)
- ◎ 宮城の復興まちづくりを巡る意欲的な企画でしたが、台風襲来予想で1日コースに短縮されたものの、日帰りでも4地区のうち3地区を巡ることができ、とても密度が濃かったです。特に当日朝に、夕方の東松島市(野蒜)地区を追加したりなど、臨機応変なサービスぶりに感謝します。あと、仙石東北ラインのハイブリッド車両に乗って松島海岸を見物できたのも楽しかったですし、女川でいただいた海鮮丼の美味しかったこと。栗原さん、椿さん、大変ありがとうございました。(O.R)
- ◎ 「還暦以上は口を出さず。盾となり次の世代に街を託す」という女川復興のキーワードが印象に残りました。今回の企画では、震災復興における街のインフラや災害公営住宅など復興事業におけるURの果たした役割の大きさを実感できました。栗原さん、椿さん、企画とご案内ありがとうございました。(H.M)
- ◎ ・復興事業が完了したことから、視察の機会は今後、少ないかもしれませんが、この先も変貌の(あるいは変貌しない)様子を追ってみたいですね。
・企画・運営、お疲れ様でした。参加して良かったです。★★★★★ (O.M)
- ◎ 台風の影響でTEKU-TEKUで全てを回る事が出来なかったのは残念でしたが、詳細な事前情報を頂いていて、既に東北に入って居た私は前日に南三陸と野蒜を回る事が出来ました。栗原さん、椿さんありがとうございました。(F.Mi)
- ◎ これまで復興途上で何度か訪れてきたが、今回復興がひと段落した段階で改めて見学することができて有意義だった。台風の迷走で企画の変更などたいへんだったと思います。栗原さん、椿さん、ありがとうございました。(F.Ma)
- ◎ 立派なまちができた反面、そこに住んでいる人たちの姿がほとんど見えなかったのが気になります。(暑かったせいですかね) (I.T)
- ◎ 様々な背景と経緯をもつ復興まちづくりを体感できて大変有意義でした。有難うございました。(K.H)
- ◎ 気仙沼からBRTに乗車した感想として、近距離でも病院や学校など小まめに乗場が設けられたのは利点かと思いました。ただし、JR鉄道線との乗り継ぎ良くない便もあるので、改善して欲しいと思いました。
・女川町では、お勧めの「おかせい」で昼食をとりました。大変賑わっていた一方で、他のお店はお客様の入りが少ないようで、ちょっと心配になりました。(ので、別のお店では「女川パイ」を職場配布用に買い込みました。)
・女川町は初めての地でしたが、事前に栗原様から頂いていた資料がありましたので現地での理解が深めることができました。ありがとうございました。(I.N)

【コーディネーターより】

- ◎ みなさん、ご参加ありがとうございました。拙いご案内で失礼いたしました。復興事業の全体像を皆さんに理解していただくというのはなかなか難しいですね。特に、公共交通機関と徒歩のみを使う、というのは厳しい面がありました。それだけ被害を受けたエリア、そして復興事業の規模が大きい、ということでしょうか。この大災害、そしてその復興に向けた取り組みがきちんと語り継がれるようにしたいものです。(T.S)
- ◎ 東日本大震災から12年を経過し、震災復興事業は完了していますが、本当の意味で街が復興できているのか、という視点で街歩きを企画しました。台風のため2日の予定が1日に短縮となりましたが、オプションの野蒜(5名参加)も含めると、女川、石巻、野蒜と3つの復興地区を歩くことができました。また、復興地区の街歩きは、そこでお金を使うことも大事だと思っているのですが、今回は宿泊や懇親会などがキャンセルとなってしまう大変残念です。皆さん、ぜひ今回歩いて気に入った地区に再度行ってみてください。そして、その美味しい食べ物やお酒を十分に味わっていただければ幸いです。(K.T)

